



考えてみよう！ 交通安全のアイデア

「カラー舗装」事故4割減 県内主要道路



路面を塗り分け、ドライバーに注意喚起しているカラー舗装。佐賀市鶴岡の国道34号大橋東交差点付近。

佐賀県内の交通事故が多発する主要道路、直進と右折のレーンを色分けする舗装が進んでいる。車をスムーズに誘導するのが狙いで、国土交通省佐賀国道事務所調査では、事故件数が4割程度減少し、対策の有効性が示された。これまで国道や県道で整備されてきたが、新たに作成した舗装に関するガイドラインを活用し、市道や町道への拡大を図る。

新ガイドライン 市・町道に拡大

「カラー舗装」は、人口10万人当たりの人身事故件数が全国ワーストに近い水準で推移する中、国道34号を皮切りに2016年から本格化した。交差点付近の路面の直進レーンを赤色、右折レーンを青色に塗り分け、視覚で注意喚起することで、ドライバーが早めに右折の合図を出すことを促し、急な車線変更を防ぐ。17年度までに国管理の国道34号の23カ所と県管理の国道と県道の計32カ所で整備している。

佐賀国道事務所が、計29カ所で実施前後の事故件数を比較したところ、年間平均で39%減少し、5・6件から3・4件になった。特に多い追突事故は46%減少し、4・1件から2・2件になった。信号の変わり目で交差点に進入する車の減少も確認された。

事故死倍増で緊急対応

市交通対策協議会 啓発活動案を可決

秋の佐賀市で自治会や企業などに配った交通対策協議会が28日、同市のほほえみネットステッカーを市民向館で開かれた。9月の秋のけに市役所の窓口で配布する交通安全県民運動に向けたことなど、四つの案が示取り組みに加え、今年同様に、全て可決された。取市での交通事故による死者り組みは9・12月に行われ数が昨年比2倍になった。

佐賀北署や南署などに、昨年1年間の市内の交通事故による死者数が5人だったのに対し、今年8月22日現在、すでに10人が亡くなっているという。緊急の交通安全対策は市生活安全課が提案、人身事故全体の約半分を占める追突事故防止を呼び掛ける「前をみよ運動」の回数増は「改めて市民一人一人が交通安全を考える機会」ド



交通事故対策について話し合った佐賀市交通対策協議会。佐賀市のほほえみ館。

(佐賀新聞 2018.8.29付)

(佐賀新聞 2018.8.21付)

◎記事から読み取ろう

○佐賀市交通対策安全会議は、いつ、どこで、何を話し合うために開かれたのですか。

- いつ・・・
- どこで・・・
- 何を話し合うために・・・
- 緊急の交通安全対策が話し合われたのは、どのような現状からですか。
- 緊急の交通安全対策を提案したのは・・・
- 主な提案内容は・・・

○カラー舗装についてまとめよう。

- 何のために、どのように色分けしているのですか。
- どのくらい効果が上がっていますか。

広げよう・深めよう

◎自分の考えをまとめよう

* 友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう

○交通安全のためのアイデアを出し合おう。

<ねらい>

<具体的アイデア>

のため、